

3.2.4 研究活動と研究環境（社会学部・社会学研究科 共通）

3.2.4.1 研究環境

【評価項目 9-1-3】 研究上の成果の公表、発信、受信等

（選択要素）研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性

（選択要素）国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況

【評価項目 9-1-4】 倫理面からの研究条件の整備

（選択要素）倫理面から実験・研究の自制が求められている活動・行為に対する学内の規制システムの適切性

（選択要素）医療や動物実験のあり方を倫理面から担保することを目的とする学内的な審議機関の開設・運営状況の適切性

<2003年度に設定した目標>

1. 研究論文公表、発表機会増加のための情動的、経済的支援などの組織的対応を充実する。
2. 国内外の研究成果を発信・受信するための組織的対応の検討。

（現状の説明）

研究業績リストは毎年度、各自がホームページに記入する形式で収集され、ホームページで公表されているが、研究論文の作成、発表については個々の教員に任されており、その促進のための組織としての対応はしていない。学部においては紀要が発行され、大学院学生にも投稿の機会が与えられ、組織的な研究会が行われている。

（点検・評価の結果）

社会学研究科として組織的には、研究論文公表、発表機会増加のための情動的、経済的支援などは行われていない。しかし、COEプログラムによって、国内外の研究者に開かれたシンポジウム、ワークショップ、研究会などが増加している。また『先端社会研究』を発行すると同時にその英文誌の発行準備もすすめられている。ただ、COEプログラムに関与するメンバー以外の教員への組織的対応はいまだ不十分である。

調査倫理については十分に検討すべきであるが、COEでの研究は進められているが、組織的対応がなされていない。

（改善の具体的方策）

社会学研究科独自の紀要の刊行、研究会の開催などについて検討する。

COEプログラム修了後の対応も含めて、社会学研究科全体としてCOEプログラムを拡大し、あらたな独自のプログラムをもって、研究論文公表・発表機会の増加をはかるための組織的対応を検討する。

調査倫理についてはCOEのテーマでもあるので、社会学研究科とCOEとの共同で検討を行う。